

## 患者支援センター在宅医療支援と移行期医療について

患者支援センターは、従来の地域医療連携室、在宅医療支援室、総合相談室を統合し、2014年8月より本格的に活動を始めました。

サービスの1つ在宅医療支援についてご紹介します。2006年から在宅医療支援室として医師や看護師、ケースワーカーや心理士が共同して、在宅医療への移行と維持に関する総合的窓口として活動してきました。母子医療センターには急性期の重篤な状態を乗り越えて、安定した状態ではあるが長期の治療を受ける必要のある慢性期の多くの患者さんが在宅医療をしながら通院されています。在宅医療がうまくいくためには安全であることに加えて、生活面での安定と喜びが求められます。病気を持ちながら、家で過ごすことで、地域社会に踏み出し、学校に通い、出会いや学び、遊びの機会が増えます。地域社会に踏み出すには、医療だけでなく福祉サービスの利用、地域の医療機関、保健所、学校、など多くの機関の助けと連携が必要で、患者支援センタースタッフ一同はこの連携のコーディネーターの役割を担います。患者さんとご家族とともに、より生きやすい方法をこれからも一緒に考えていきます。



患者支援センター 副センター長  
位田 忍

<移行期医療について>小児期発症の疾患のある患者さんが、成人期になってもその病気の継続的な診療を受けることに加えて、妊娠出産、高血圧やコレステロール値が高い、といった成人領域の問題にも対応してもらうためには、個々の患者さんにふさわしい成人期医療への移り変わりが必要です。小児期医療から成人期医療への移り変わりの医療を「移行期医療」と呼びます。移行期医療は、小児科側から見ると疾患のある患者さんを独立した成人として巣立たせる自立支援の過程であり、患者さん側から見ると病気を受け止める過程です。このような移行期医療の内容や提供体制はまだ確立されていません。

2012年10月に「移行期医療を考える会」が立ち上がり、母子医療センターにおける年長患者の実態把握、移行に必要な機能や支援の検討、移行可能な施設の開拓、移行の試行を行うとともに、移行支援プログラムの検討を行ってきました。2014年2月に小児科学会の指針を基に「成人期を迎える患者さんに対する当センターの考え方」をとりまとめホームページに掲載しました。今回、2015年度厚生労働省の小児慢性特定疾病児童成人移行期医療支援モデル事業に参画することとなり、院内に「移行期医療支援委員会」を設置しました。外科、内科、産科、子どものこころの診療科、看護の参画もあり、全病院的に、患者さんが病気を受け止め、病気を持ちながらも成長発達していく子どもたちの自立のお手伝いをしたいと考えています。

(患者支援センター 副センター長 位田 忍)

## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

## 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

小児神経科

いつもたいへんお世話になっております。小児神経科です。

当科は1981年の当センターの開設時からあり、小児科部門で最も患者数が多い診療科です。

小児神経科の対象疾患は中枢神経～脊髄～末梢神経～筋肉の病気です。特にけいれん性疾患の紹介は多く、初診の小児てんかん患者数は近畿圏でも1～2位とトップクラスです。難治性のてんかん患者では必要に応じて入院して頂き、ビデオ脳波同時記録（病棟に2室）、SPECT検査も行った上で正確な診断と治療方針を心掛けています。そのほかに発達の遅れ、運動障害、意識障害、頭痛などの症状を呈する疾患はどうぞご紹介ください。

最近、小児科領域では成人医療機関への移行（トランジション）が大きなテーマになっています。当科にも



小児神経科スタッフ

20歳を超えた多くの患者さんがいますが、その大多数は知的あるいは身体の障がいがあります。一部には成人医療機関への完全な移行が困難で小児科と成人診療科の両方が連携して診療するのがベストである患者さんもおられます。地域の皆様方のお力をお借りし、連携体制の構築が出来ればと願っています。

最後に、小児神経科のスタッフは7名ですが、現在、部長以外は女性です。どうぞ“なでして小児神経科”を宜しくお願い申し上げます。

（小児神経科 主任部長 鈴木保宏）

当センターでは、“顔の見える連携”をキーワードに地域の医療機関との連携に取り組んでいます。その取り組みの1つとして年2回「地域連携懇話会」を開催しています。地域の医療機関の方をお招きし、当センターへの期待や課題について直接意見を伺い、改善につなげるのが目的です。

第6回 地域連携懇話会を実施しました  
(2015年7月30日)

今回は、産婦人科クリニックの先生をお招きし、貴重なご意見をいただきました。



分娩後のフォロー期間について

→産後のフォローは原則1か月健診までとしておりますが、状況に応じてその後も対応しております。

助産師・看護師向けの勉強会の要望

→助産師ラダー申請のために必要な研修（NCPR）を公開しています。

分娩取扱者に対する新生児蘇生法  
(NCPR) 講習会 Aコースのご案内

9月から当センタースタッフを対象として行っていた講習会が、連携登録医、セミオープン登録医の方々にも受講していただけるようになりました。もちろん、お一人での参加も可能です。

本講習会にて標準的な新生児蘇生法の理論と技術を習熟することにより、新生児の救命と重篤な障害の回避が期待されます。なお、「新生児蘇生法修了認定」の資格は講習会受講後の試験に合格し、所定の手続きを経て取得することができます。

【開催日時】 毎月第2土曜日 12:30～17:30

【開催場所】 大阪府立母子保健総合医療センター 中央会議室

【参加費】 5000円/人

【申込方法】 『受講希望日、所属先、職種、参加者氏名、連絡先』をメールにてお知らせください。

【申込先】 患者支援センター Email: chiren@mch.pref.osaka.jp

## 新部長の紹介



耳鼻咽喉科  
部長  
廣瀬 正幸

7月に府立急性期・総合医療センターより赴任しました。15ヵ月ぶりの母子医療センターで、少し新しくなったところもあり戸惑い気味です。耳鼻科領域で困っているちびっ子達を助けたいと思っています。御紹介宜しく願い申し上げます。



泌尿器科  
部長  
松本 富美

1991年の小児部門のフルオープン以来部長を務められた島田先生が定年退職され、早2年。この度バトンを引き継ぐこととなりました。これまで同様全力疾走で頑張ります。これまで同様全力疾走で頑張ります。ご支援よろしく願います。



整形外科  
主任部長  
樋口 周久

7月より、川端前整形外科主任部長を引き継ぎ、整形外科主任部長を拝命いたしました。20年前にレジデントとして整形外科勤務を行ったときと同じ気持ちで、当センターの発展に貢献できるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

## 検査センターのご案内

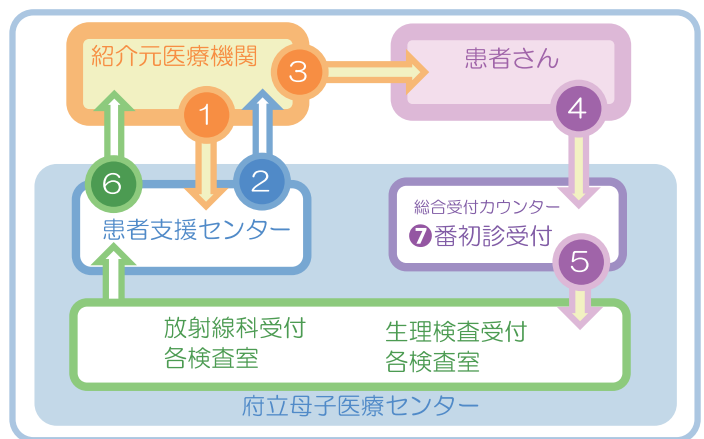
検査センターとは、各医療機関における診療の過程で、CT・MR・脳波・心エコー・心電図の各検査が必要となった場合に、『母子医療センターで検査を実施し、その検査結果を紹介元医療機関へ報告する』というシステムです。母子医療センターの開院時から培ってきた、小児医療における画像検査と生理検査のノウハウを生かし、地域の医療機関のお役に立ちたいと考えております。今後はより貢献度の高いシステムとなるよう、検査の種類・適応範囲等を拡充していく予定です。



2015年6月より  
検査センターを  
開設しました。

### 申し込みから検査終了までの流れ

- ① 検査予約の申し込みは、各医療機関より FAX でお受けいたします。
- ② 検査日時を決定し、折り返し FAX でご案内いたします。
- ③ 各医療機関から、患者さんにご説明してください。
- ④ 検査当日は、総合受付カウンター⑦番初診受付で受付をしていただきます。
- ⑤ 各検査室にて検査を行います。
- ⑥ 検査結果は後日、紹介元医療機関へ郵送いたします。



### 検査内容

#### ◎放射線科 実施検査

検査の種類	曜日	時間	対象年齢
CT (単純のみ)	月曜日～金曜日	15:00～15:30	6歳以上 18歳以下
MR (単純のみ)	月曜日～金曜日	15:30～16:15	6歳以上 18歳以下

- \* 眠剤を使用する検査は行いません。
- \* 単純検査のみで、造影検査は行いません。

#### ◎検査科 実施検査

検査の種類	曜日	時間	対象年齢
脳波	月曜日～金曜日	9:10～10:10	6歳以上 18歳以下
心電図 (安静時12誘導)	水曜日・金曜日	9:00～12:00	6歳以上 18歳以下
心エコー	水曜日のみ	9:00～9:30	6歳以上 18歳以下

- \* 眠剤を使用する検査は行いません。
- \* 脳波検査は、睡眠賦活を行いますが、自然睡眠のみとし、自然睡眠が得られなかった場合は、覚醒時のみの検査となります。

※ 詳しくはホームページをご覧ください。

## 第2回 地域医療連携研修会のお知らせ

地域の医療機関の先生方を対象に、下記の日程で、地域医療連携研修会を開催いたします。  
ぜひご参加ください。なお、研修会終了後ささやかながら情報交換の場をご用意しております。

### 日時

2015年 10月 24日(土)  
午後 4時 ~ 6時

### 場所

梅田スカイビル  
タワーウエスト 36

〒531-6136  
大阪市北区大淀中1-1

### 1 教育講演 「こどもの低身長」

座長 西垣 正憲 先生 (堺市医師会小児科医会会長)

演者 位田 忍 (大阪府立母子保健総合医療センター 消化器・内分泌科 主任部長)

### 2 病院の紹介

倉智 博久 (大阪府立母子保健総合医療センター 病院長)

### 3 特別講演 「無侵襲的出生前遺伝学的検査の現状と今後の展望」

座長 倉智 博久 (大阪府立母子保健総合医療センター 病院長)

演者 関沢 明彦 先生 (昭和大学医学部 産婦人科 教授)

※共催：大阪府立母子保健総合医療センター、ファイザー製薬株式会社  
大阪府医師会生涯教育講座認定 (2単位) を取得しております。(申請中)

## イブニングセミナーと病院見学ツアーのお知らせ

2015年度も引き続きイブニングセミナーを開催いたします。どうぞお気軽にご参加ください。

時間：午後5時30分～6時30分 場所：大阪府立母子保健総合医療センター内 事前申込み：不要

日程	場所	テーマ(仮題)	担当部署	講演者
2015年11月5日(木)	研究所 大会議室	小児のレントゲン読影	放射線科	市田 和香子
2016年1月14日(木)	研究所 大会議室	けいれん発作	小児神経科	池田 妙

今年度から、より母子医療センターを知り安心して患者さんを紹介していただくために、イブニングセミナーの開始前(午後4時30分～)に病院見学ツアーを開催しております。

※事前に ☎0725-55-3113 までお申し込み願います。  
お申し込み時に、参加者の氏名・医療機関名・職種・人数をお知らせ下さい。

### 第1回病院見学ツアーを実施しました(7月9日)

医師・看護師・事務職員の計7名がツアーに参加され、病棟・外来・手術室・集中治療室などを見学されました。患者さんがどのような環境で治療や看護を受けているのか知っていただく機会になったと思っています。



診察時間：平日 午前9時～午後5時

予約受付時間：平日 午前9時～午後7時

地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立母子保健総合医療センター  
患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)

FAX: 0725-56-5605

【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)

FAX: 0725-56-7785

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。